

# 解剖・組織技術研究会第19回研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班 中谷 宣弘

## 1. はじめに（目的等）

解剖・組織技術研究会は全国の献体処置に携わる職員（主に技術職員）が参集し、業務を行う上での問題点、改善方法について意見交換を行う会である。今回、これに参加することにより、献体処置やそれを取り巻く全国の状況に関する情報を得る事を目的とした。

## 2. 期間・場所

期間：令和5年11月18日

場所：石川県教育会館（石川県金沢市）

## 3. 参加者等

献体処置に携わる技術員 約40人

## 4. 研修内容

午前；研究会総会と全体討論1「CSTにかんするあれやこれや～みなさんどうしてます？」

午後；一般演題1題と全体討論2「防腐固定処置方法について」。

## 5. まとめと感想

全体討論1では近年始まった医師による死体を用いた手術手技訓練（CST）に関する全体討論が行われた。本学でも5年ほど前から始めているが、症例数が少ないため色々聞きたいことがあったので、積極的に参加し意見交換をおこなった。一般講演は献体者への感染症スクリーニング検査を行っている大学から陽性率の発表があり、私は座長として進行を担当した。

近年、全国的に解剖系技術職員の世代交代が相次いであり、今回参加者の1/4程度は入職数年以内の人であったため、全体討論2として、いくつかの大学の基本的な防腐処置を紹介し、事前に募った質問を被せる形で討論を行った。かなり活発なディスカッションとなり、時間切れで打ち切られた形で終わり非常に残念だったが、全体的にとっても得る事が多い会であった。

また、私は当会の会計幹事をしているので、会の開催前の打ち合わせ、準備片付けを行うとともに、当日の会場受付も担当した。